

## 授業評価・授業研究報告

美術教育講座・福井一真

平成 29 年度 2 年次後学期（水曜日 2 限）の教職科目 B 美術科教育法 2 についての授業評価・授業研究報告を行う。担当者：福井一真／登録学生数 2 名。

### 1 授業の目的および概要について

本授業は中学校美術科および高等学校芸術科美術の学習指導要領や教科書の内容を理解し、学習指導計画を立てるとともに、中等教育に必要な題材を設定する力を身につけることを目的とし、以下の 3 点を到達目標としている。

(1) 中学校美術科および高等学校学習指導要領芸術科美術の学習指導要領における各学年及び各領域の目標や内容を理解することができる。

(2) 中学校美術科および高等学校芸術科美術の年間指導計画を練ることができる。

(3) 題材設定の方法を理解し、題材研究において検討した内容をプレゼンテーションすることができる。

### 2 授業を行う上での工夫

2 年次前期の美術科教育法 1（秋山敏行担当）での学習内容（主に中学校での美術科）を引き継ぎ、中等教育美術科の題材研究を主な内容としている。また、3 年次前期の美術科教育法 3 では授業づくりを主とした内容となっていくため、1 から 3 へと発展していく学習内容を踏まえた授業構成にした。具体的には、年間指導計画を立案し、題材研究を深めた上で、45 分間の題材プレゼンテーションの実施・省察を通して、美術科における題材理解を深めるための自己課題を明確化できるような工夫を行った。

### 3 授業アンケートの結果

授業アンケート（平成 30 年 2 月 10 日実施）は、2 名の回答を得ることができた。

#### 3-1 授業全体について

【総合的にこの授業は満足だった】という設問に対して、「とてもあてはまる」2 名、【全体的にこの授業を真剣に受けた。】という設問に対しては、「とてもあてはまる」2 名という回答を得た。この結果から、授業全体を通して、学生が積極的に授業に取り組んでいたと判断することができる。

【美術科教育法 2 の授業の内容は教育実習や今後、教師になってからも役に立つ】という設問では「とてもあてはまる」2 名という回答を得た。この結果から、学生にとって、本授業の実施方法については概ね良好であったということがわかった。

#### 3-2 地域社会を書くとした教育と研究のつながり

近年では、子どもの造形プロセスによくみられる「つくりながら考える」造形プロセスについての研究を行っている。本プロセスはイメージを前提とした活動ではなく、素材や道具などのかかわりの中から、イメージが着想し、変容していくことを前提としたものである。学生は、美術科教育法 1 でこうしたプロセスを実際の造形活動を交えて追体験していくことで、理解を深めてきた経緯があるため、そうした経験を、本授業では、中等教育における美術科の授業に反映させていく工夫を行っている。年間指導計画や、題材プレゼンテーションをみる限り、学生にも本造形プロセスへの理解の深まりを確認できた。

### 4 成果と課題

【本授業の改善点】についての回答は、特に得られなかったが、【本授業の良いと思う点】については以下のような記述がみられた。

- ・様々な素材・題材についてヒントを得られる。  
（実践により）素材・題材の他に授業のやり方・構成も理解できる。
- ・自分で考え、判断し、授業を考える機会になった。

これらの意見から、本授業の目的のひとつでもある、中等教育美術科における題材への理解を深めることができたと考えられる。しかし、改善点に関する指摘は学生から出なかったものの、今年度から新カリキュラムでの実施となり、学生の受講人数がこれまでよりも大幅に減少する中で、プレゼンテーションの実施方法やアクティブラーニングの展開については、次年度以降も継続的に模索していくこととする。